



# 第89回日本感染症学会学術講演会 ランチョンセミナー5

日時

2015年4月16日(木) 11:55~12:45

会場

国立京都国際会館 第5会場(1F Room E)

〒606-0001 京都府京都市左京区宝ヶ池

## 呼吸器感染症 迅速診断の展望

司会

泉川 公一 先生

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 感染免疫学講座 臨床感染症学分野

演者

石田 直 先生

公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院 呼吸器内科

ランチョンセミナーは整理券制となります。

ランチョンセミナー整理券配布場所:1階メインホール前ホワイエ

配布時間:7:45より開始いたします。

セミナー開始5分後整理券は無効となります。

共催 第89回日本感染症学会学術講演会  
旭化成ファーマ株式会社

# 呼吸器感染症迅速診断の展望

石田 直

公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院 呼吸器内科

感染症の治療は、原因微生物を同定して至適な抗菌薬を投与することが原則であるが、多くの場合、原因不明でエンピリックに治療を開始することになる。しかしながら、原因が判明すれば、適切な治療が早期より施行でき、狭域の抗菌薬を使用することにより、耐性菌の誘導も防止することができる。

近年、被験者の傍らで、または診察室で迅速に検査結果の得られる、POCT (Point of Care Testing) の考え方が広まってきた。呼吸器感染症において迅速診断が必要になる対象の病原微生物としては、特異的な治療薬が必要となるもの (インフルエンザ、レジオネラ症など)、薬剤耐性菌の増加や重症化等の点で疫学的に重要なもの (肺炎球菌、インフルエンザ菌など)、培養や抗体上昇に時間を要する非定型病原体 (マイコプラズマ、クラミドフィラなど) が想定される。これらの病原微生物の抗原検出のための種々の検査法が開発されてきている。

なかでも、注目を集めているのが、リボゾーム蛋白L7/L12である。L7/L12は、リボゾームを構成している蛋白の1つであり、すべての細菌のリボゾーム中に存在している。L7/L12の構造には菌種により特異的な領域が存在し、その菌固有の領域を識別するモノクローナル抗体を用いることで、目的とする細菌のL7/L12の菌種に固有な領域を識別でき、理論上すべての細菌が同定可能であり、ひいては網羅的に菌検索を行う可能性もある。

細菌学的検査における近年の3大技術革新は、自動同定感受性機器、質量分析、遺伝子解析の導入といわれている。なかでも、質量分析法により、菌種の培養、同定までの時間が、以前よりはるかに短縮できるようになったが、耳慣れない菌種が報告されるようになったことや、培養結果と感受性結果の報告にタイムラグがでること、菌種によっては鑑別が困難なことなどの問題点もあり、現場に些かの混乱が生じることもある。

本講演では、従来からの迅速診断法に加えて、新たに採用された検査や開発中の迅速検査法、また質量分析法について、自験例や治験の成績も一部含めて紹介してみたい。将来の迅速診断法としては、感度の高い検査や多菌種を鑑別できるキットの開発、薬剤感受性を判定できる迅速検査などが要望される。